

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第4号

令和6年7月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

1学期が終わります。どのような生活でしたか。主体的に学び、学校生活を充実させることができましたか。勉学に、部活動に、行事に、委員会活動に頑張ったことと思います。

さて、社会が大きく変化しているのは感じていると思いますが、具体的にどう変わっているのかがまだよくわかっていないのではないのでしょうか。未来が描ける仕事図鑑（JobPicks編集部・編著）という本の『自分に「合う」仕事を考える』の内容をまとめましたので、どう生きていくのかを改めて考えてみてください。働くことの価値観が変わっていることが紹介されています。（少し難しいですが、読んでみてください）

はじめに

自分の得意なことが発揮でき、その仕事の目的が自分が大事にしている価値観と合い、さらに市場からのニーズがある。我々は、この3つを兼ね備えた役目が「良い仕事」だと考えます。ですから、人によって「良い仕事」はそれぞれ、なぜなら、得意も価値観も、人の数だけ違うからです。

ではどうやったら、自分にとっての「良い仕事」と出会えるのでしょうか？

それは、才能を最大限に生かす仕事をつかんだロールモデルの経験や知恵に学ぶことではないでしょうか。

学生、新入社員の「仕事観」が変わった

「企業を選ぶときに最も重視するポイントは何ですか」と聞いたところ、「自分のやりたい仕事であること」と答えた人が6割以上とダントツ1位の結果となりました。

2位：給料が高いこと

3位：自分の成長が期待できること

4位：自分の能力やスキルが生かせること

一方、「会社の将来性」を就職、転職の最重要条件としている人の数は10%を下回っています。会社に依存をする傾向が減少し、反対に、自らの技能や能力を生かす「職業」への適性に関心が向いていることがわかります。

就活生を対象にインターネットで「転職を前提として就活するか」を聞いた調査でも、約4割が「はい」と回答しています。

会社は「経歴」より「スキル」を見る

企業の採用担当者は、候補者の「経歴」より「スキル」を重視する傾向が高まっています。転職者のキャリア相談に乗る「キャリアカウンセラー」も、塾講師、キャビンアテンダント、営業、新聞記者など様々な前職の人が多い職種です。

キャリアは自分で作る時代

自分の職業人生を自分で決める時代になったと言えます。いま企業が若手に求めることは、会社が用意したものに乘ればよいという態勢ではなく、自分のキャリアをどう作っていくかという意識を持ち、日々の仕事に取り組めるかどうかです。

仕事選び3原則

- ① 得意が活かせる(自分の得意なことと、その仕事で求められるスキルとの適応)
- ② 価値観が合う(その仕事をする意義や目的に共感できる)
- ③ 将来性が高い(その職業経験が将来に繋がりやすい)

の3拍子が揃った仕事こそがその人にとっての「良い仕事」だと考えられるのです。

自分の「得意」を棚卸しする

日頃の自身の言動を振り返り、人に頼りにされたり、褒められたりした経験を思い出すなどしながら、それらの抽象度を高めると、得意なことが見つけやすいのではないのでしょうか。

社会の変化を捉えて、自分のやりたいこと・なりたいことを見つけましょう。AI・DX・温暖化・プラスチックごみ・エネルギー源・平和などキーワードは無限と言ってもいいぐらいたくさんあります。一人で解決できることはありません。人と協働して、チームで働くことを考えていきましょう。

人は人と関って、お互いの存在を認め合うことができ、信頼関係が生まれ、喜びを感じ、生きがいをもって生きていくことができるのです。

つばさ総合高校の課題研究について、

なかなか論文にならず、調べ学習で終わってしまう例が多いですが、「自分で課題を発見し、解決していこうという力」を、課題研究等を通じて自らつけています。

「課題の設定→先行研究などの情報収集→調査・整理・分析→まとめ・表現」というプロセスを踏んで探究していく学びが、先を見通すことができないとされるこれからの時代を生き抜いていくのに重要なのです。

現実には生きている社会で何が起きているのか、しっかり見つめ、考え、行動していきましょう。